

ABC検診とバリウムによる胃透視撮影の比較検討

○大倉光雄、今井新、八木孝明、寺田哲也、山本淳、谷口俊樹、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆
財団法人近畿健康管理センター

【背景】

近年 ABC 検診は胃がんリスクのスクリーニングはもちろんのこと、住民検診などの「対策型検診」にもその有効性が評価されてきている。しかしながら職域の健康診断ではバリウムによる胃透視撮影(以下胃透視)が、漸減傾向にはあるものの、約 15 万人/年間(平成 22 年 4 月～平成 23 年 3 月実績)程度と、今もなお高い受注状況にある。ABC 検診の先行研究では胃内視鏡検査との比較調査研究が多く、今回我々は ABC 検診と胃透視との間にどのような特徴があるのか調査を試みた。

【方法】

平成 23 年 11 月から平成 24 年 2 月に当財団で健康診断を受けた受診者のなかで、オプション検査(任意検査)として ABC 検診を受診した 502 名のうち同日に胃透視を重複受診した 169 名について、1)ABC 検診の群別の結果と胃透視の判定で要経過観察以上(有所見)の分布を 2)胃透視の所見別に ABC 健診の群別の分布をそれぞれ調査した。

【結果】

1)ABC 検診の群別による胃透視の判定では、A 群でも 125 件中有所見 16 件が該当し、B 群 C 群でも n 数は少ないが、特徴的な結果にはならなかった。2)胃透視の所見から見た場合では、要精密検査(良性/悪性鑑別が必要なもの)と判定された 6 件のうち胃ポリープと判定された 4 件の ABC 検診結果はすべて A 群となった。また他の 2 件はともに胃潰瘍の疑いを判定され、1例は胃粘膜の乱れが、他の 1 例はニツシェ様が観察されたが、ABC 検診ではともに B 群となった。

表 ABC 検診の群別の胃透視有所見割合

n=169		ピロリ菌検査	
		陰性(-)	陽性(+)
ペプシノゲン検査	陰性(-)	A 群 12.8% 有所見 16/総数 125	B 群 10.3% 有所見 3/総数 29
	陽性(+)	D 群 0% 有所見 0/総数 1	C 群 7.1% 有所見 1/総数 14

【考察】

今回の解析ではABC検診と胃透視の間に明確な相関は見られなかった。また胃ポリープにおいては結果からもABC検診ではその特性上検出されないことを考慮した上で、検診項目として受診対象の棲み分けや年齢対象モデルケース等を構築していきたいと考える。さらに4月末までのデータを解析し、学術集会当日に考察したい。